

JOCV千葉OB会報

2023年1月
No. 102

新年号

1. 年頭所感 “JICA 海外協力隊遣事業の継続”

1. 新年のご挨拶

謹賀新年！ 2023年を迎えました。

2020 年1月頃からの新型コロナウィルス禍によって日本を含む海外諸国における政府の要請や自主的な判断で皆さまも活動の自粛（制限）を行ってきましたが、とうとう4年目に入りました。今、人々にとって多くの活動が少しずつ緩和されてきたとは言え、心の何処かに不安なところは残っていることと察します。この間、JICA 海外協力隊隊員として現地派遣に希望を膨らませていた方々にとっても派遣待機/中止という事態は精神的にも肉体的にも大変な状況が生じたことと思いますが、昨年は派遣前訓練が始められ、JICA 海外協力隊の春募集・秋募集が実施されています。既に2022 年度 1 次隊・2 次隊・3 次隊の訓練が終了し 1 次隊・2 次隊の隊員は既に任地へ派遣されており、3 次隊も 1 月中に派遣される予定と聞いています。

これまでの青年海外協力隊（JOCV）の歴史を振り返ると、1965 年に“日本青年海外協力隊”が発足して JOCV 隊員が初めてラオス（東南アジア）に派遣されて現在に至りますが、2018 年秋募集以降、JICA ボランティア事業は従来の年齢による区分を改めて幅広い職種で応募可能な案件を「一般案件」（旧：青年海外協力隊→新呼称：青年海外協力隊（但し、46 歳以上の方は“海外青年協力隊”））、一定以上の経験・技能等が必要な案件を「シニア案件」（旧：シニア海外ボランティア→新呼称：シニア海外協力隊）と区分しました。そのため、2018 年以前の年齢による区分であった「青年海外協力隊」と「シニア海外ボランティア」と、現在の区分による呼称とが多少混乱しそうになります。詳しくは JICA 海外協力隊のホームページを見て頂きたいのですが、例えば従来の「青年海外協力隊 OV 会」と「シニア隊員 OV 会」の在り方（協力関係）が変化しそうに思います。

このような制度変更はありましたが、派遣中の海外協力隊員の方々には任国にて是非、健康に留意しつつ（無理をせず）現地にて活躍して頂きたいと思います。そして、休暇時には任地以外も是非訪れて見聞を広げ、経験や知見を積んで頂きたいものです。そして帰国後は自分自身の協力隊経験をベースに日本社会に何らかの形で寄与して頂きたいもので

す。特に国内居住地域への寄与や海外協力隊に参加したい方々にも是非、ご自分の経験を伝えて頂きたいものです。

私事ですが、特にこの数年は月日が過ぎるのが早く感じられて今年も師走（12 月）のカレンダーを見た時、もう新年が来るのかと思いました。日々の生活が単調ではないのですが、新規に見聞する/感動する機会が少なくなったせいかもしれません。また、コロナ禍によって行動範囲（国内外旅行・仕事）が狭まってしまったせいかもしれません。当会は2019 年まで様々なイベントに参加していましたがコロナ禍のために参加機会が減少し、今は徐々に復活しつつあるようです。昨年は千葉県出身者の派遣前訓練終了し「派遣前の千葉県本庁表敬訪問及び壮行会が3回（7 月、9 月、12 月）実施されました。これまで千葉県から JICA 海外協力隊派遣実績が累計 2,400 名（派遣中：24 名、帰国済：2,376 名、2022 年 10 月末時点）にもなります。

多くの協力隊関係者（派遣中隊員、待機中の隊員、規定任期前に終了した隊員、隊員を辞退した方、OB/OG 他）には仕事や健康、社会環境変化等でさまざまな予期せぬことが起こり得ることと想像しますが、過去の経験・知見を基に対処し乗り切ることを願ってやみません。更に今、自らの意志で海外協力隊員となって開発途上国で活動している方々のご健闘を心より期待しています。

フレーフレー、海外協力隊！ 頑張れ！

青年海外協力隊千葉OB会 会長 西村邦雄
（昭和 57 年度 4 次隊 理数科教師 ネパール：1983.4～86.4）



【赴任校教員及び近所の人達とピクニック（イラム郡）】

【後方はカンチェンジュンガ山系（1983 年秋）】

目次

1. 会長挨拶
2. 報告事項
 - (1) 会報の発行に係るアンケート
 - (2) JOCA 関東ブロック会議
 - (3) 新隊員等県庁表敬・壮行会
 - (4) 協力隊まつり 2023
 - (5) イベント情報その他
3. 現地活動レポート

2021-4	岩佐 幹生	ブータン	労働安全衛生	流山市
2021-1	小野 智広	ケニア	障害児・者支援	千葉市
2021-4	宮道 宏彰	タイ	コンピュータ技術	千葉市
2021-1	寺澤 晶子	セルビア	食品加工	千葉市
2021-2	金澤 峻	パラグアイ	コミュニティ開発	君津市
2021-1	市川 なつみ	カンボジア	体育	東金市
2021-3	宮田 萌美	セルビア	防災・災害対策	松戸市
2021-4	鈴木 美佐子	カメルーン	青少年活動	柏市
2021-1	濱満 直人	ウガンダ	環境教育	千葉市
2021-1	木村 愛花	ケニア	青少年活動	船橋市
2021-1	山下 宗之	ケニア	青少年活動	八千代市
2021-2	中山 舞子	モザンビーク	経営管理	東金市
2021-2	木下 美音	カメルーン	コミュニティ開発	我孫子市
2021-4	木村 航平	ルワンダ	コミュニティ開発	千葉市

4. 年会費納入のお願い
5. 編集後記
- ～お知らせ～

2. 報告事項

(1) 会報の発行に係るアンケート

前会報（No101）にて当会の「会報」に係るアンケートをお願いしました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。しかしながら、回答数が少ないため再度お願いします。このアンケートは今後の会報の発行に関し再検討をするための資料とするためにお願いしています。

お手数ですが下記の QR コードからアクセスしてご回答頂くか、あるいは当会のメールアドレス（info@jocvchiba.net）宛にメールでお答え下さい。なお、メールでお答え下さる際、Q2・Q3 の回答は該当する項目のみを書いてお送り下さい。既にご回答して頂いた方は今回のご回答は不要です。

Q1-1 氏名 ()	
Q1-2 隊次 ()	
Q1-3 派遣国 ()	
Q1-4 職種 ()	
Q2 これからも継続して紙ベースでの会報発行を希望しますか？	
☐ 希望する	☐ 希望しない ☐ デジタル版で良い

Q3 会報の発行回数は南海が適当だと思いますか？

☐ これまで通り年2回 ☐ 年1回で良い

Q4 自由記載（お気づきの点や改善点などがありましたらご記載ください）



(2) JOCA 関東ブロック会議

2022 年度関東ブロック会議（対面、オンライン）が下記のとおり開催されました。

1) 日時：11 月 5 日（土）12 時～14 時

場所：あーすプラザ（横浜）（会議終了後、食事会 14 時～16 時）

2) 各 OB 会の活動報告

3) JOCA 事業報告

① 協力隊事業の現況（募集説明会：春・秋募集の実施）

2022 年度春募集結果 一般案件：[要請数] 867 件

[応募者数] 1315 名

[一次合格者数] 968 名

[最終合格者数] 514 名

シニア案件：[要請数] 70 件

[応募者数] 121 名

[一次合格者数] 95 名

[最終合格者数] 37 名

2022 年度秋募集 応募受付期間：11 月 1 日～12 月 12 日

一般案件：[要請数] 1081 件

シニア案件：[要請数] 68 件

② 2022 年度 JICA エッセイコンテストの現況

審査スケジュール 1 次：9 月 18 日～10 月 21 日

2 次：10 月 22 日～11 月 10 日

最終：12 月 9 日

応募作品数 中学生の部 19,829 （千葉県の中学生応募数 963 作品）

高校生の部 24,048

計 43,877

③ 地方創生事業の現況；社会法人佛子園 joint venture 公益社団法人 青年海外協力協会

「輪島 KABULET」を皮切りに、JOCA の OBOG が日本各地で様々な「地方創生事業」に取り組んでいる。

2015 年～ 石川県輪島市 輪島 KABULET

2016 年～ 宮城県岩沼市 IWANUMA WAY

2017 年～ 鳥取県西伯郡 南部町 PROJECT

広島県山県郡 安芸太田 JOCA X 3

2018 年～ 長野県駒ケ根市 Mission JOCA

大阪府摂津市 JOCA 近畿 オモシロイ引越し PROJECT

④ 2023 年度開催は山梨県（予定）

(3) 2022 年度 2 次隊及び 3 次隊の千葉県庁表敬訪問及び壮行会

① 2022 年度 2 次隊の派遣前千葉県庁表敬訪問及び壮行会

派遣隊員 5 名：[青年海外協力隊]ウガンダ、グアテマラ、ブータン、ルワンダ
[海外協力隊]マレーシア

日時：9 月 13 日（火） 表敬訪問：11 時～11 時 30 分 壮行会：12 時～13 時

当会からの出席者：西村邦雄（会長） 石井和由（事務局次長）

② 2022 年度 3 次隊の派遣前千葉県庁表敬訪問及び壮行会

派遣隊員 7 名：[青年海外協力隊]東チモール

[海外協力隊]ガーナ、ニカラグア、エクアドル、コスタリカ、ナミビア
[日系社会海外協力隊]ブラジル

日時：12 月 16 日（金） 表敬訪問：11 時～11 時 30 分 壮行会：12 時～13 時

当会からの出席者：西村邦雄（会長） 石井和由（事務局次長） 村田三七男（サポーター役員）

(4) 協力隊まつり 2023

「協力隊まつり 2023」は 2023 年 4 月 22 日（土）23 日（日）にリアル（市ヶ谷）とオンライン（各 OV 会事務所等）で開催される予定です。当会は 2019 年以前と同様、リアル（市ヶ谷）で参加予定です。当会は「千葉県出身隊員」のパネル展示と「応募相談」は従来通りですが、他に物品販売等のアイデアを募集しています。

(5) イベント情報その他

2023 年 2 月 5 日（日）、『地球のステージ特別公演（子供達と教育関係者を対象とした、野田市の国際化イベント）』（於：野田市文化会館）開催予定です。当開催にあたり当会 成瀬猛さん（東葛地区担当役員）が副実行委員長としてプロモートをしています。

3. 現地活動レポート

2021-4 岩佐 幹生 ブータン 労働安全衛生 流山市

2022 年 6 月からブータンで建設公社に所属して、工事の安全衛生について指導しています。安全管理者の訓練、モデル現場の提示、現場のパトロール・改善が主な活動となります。

ブータンのほとんどの民間工事現場は、低賃金の国外労働者が主流で、竹足場に保護装備の着用もないという現実があります。過去 2 年間、コロナで労働省等の指導等外部活動の停滞等があり、基準の徹底ができておらず、関係団体の労働省や建設協会は工事安全意識の欠如に強い危機感を覚えています。JICA ブータン事務所の主導の下、私も建設公社として規則普及・教育に参画しています。

当初、私は安全設備的な面に目を向けがちで、日本の工事現場の装備が入手できない現実打ちのめされていたのですが、JICA の専門支援をさせていただいている中央労働災害防止協会の御指導を受け、安全意識の醸成の為、啓蒙活動：月毎の啓蒙資料の配布、現場訪問と担当者、労働者と交流から開始しました。

インド基準やイギリス基準、アメリカ基準の混在、また、日本の工事で研鑽された方も多く、各基準や手法に言及しながら、今、手元にある材料で何ができるかということ現場の方々と模索しています。

遠隔の現場にも足を運ぶことがあり、国内は広く行かせていただいておりますが、多くが山中なので、一般的な観光は、通りすがりに車中から覗くだけになっています。会社の車なので運転は安心なのですが、ほぼ、全行程が日光のいろは坂で、凸凹なので舌を噛まない様に把手にしがみついて移動しています。

唐辛子はこちらの方に欠かせない食材で、普段の食事は、漬物の様に生をかじりながら、カレー（これも唐辛子だらけ）とごはんをいただくというのが通常です。毎食、頭からお尻まで汗をかいています。

高度は富士山くらいが当たり前なので、慣れるまで、息が上がって大変でした。4000mくらいまでは丘と呼び、山は6000～8000くらいを山と呼ぶようです。

公務的な職場は、男性はゴという厚手の浴衣様の民族衣装を着なければいけません。帯のところで裾がひざ位置になる様にたくし上げて着用します。帯を締めあげて苦しいので、余程のイベントで無い限り、スーツで失礼させてもらっています。

こちらの方は、昔の日本の大家族的な結びつきと優しさがあります。私がどうにか暮らしていけるのも、様々な回りの人から支援を頂いている賜物です。集まりが多く、子供が生まれた、家を引っ越した、法事、など行事に参加して一緒に座っていると、同じアジア人で外見では区別がつかないので、言葉が良く話せないことを忘れてリラックスすることもあります。



【作業所朝礼訓話】



【現場での指導】



【現場のスタッフと】

2021-1 小野 智広 ケニア 障害児・者支援 千葉市

[1. 任地では何をしてるの?]

2021年12月1日から、首都ナイロビから車で約1時間のティカという町にある、ジョイタウンセカンダリースクールで活動しています。主な活動は、生徒の卒業後の自立に向け、現地で手軽に手に入るものを利用した、紙漉きによるポストカード等の手作り製品の製作や、パラスポーツ、特にボッチャの指導・普及です。また、日本の高校や中学校から依頼を受け、オンライン交流会も行っています。紙漉きでは、現地美術教師のアドバイスを受け、学校の近くを流れる川で「カバの糞（ふん）」を採取し、紙の材料としたのが最大のポイントです。普通に作る紙よりも破れにくい紙ができました。現地の教師や生徒にも好評です。今後は生徒と相談しつつ、さらに多様な製品展開をしていこうと考えています。

[2. ここがビックリ！ケニアのリアル]

ケニアに来て驚いたのが、代金支払いシステムの便利さです。「MPESA」（エムペサ）という電子決済が非常に普及していて、現金を持ち歩く必要がほぼありません。光熱費、食費、家賃、航空運賃、タクシー代等全てMPESAで支払えます。送金も簡単にできますし、もしも現金が必要な時には、近くのお店に行って簡単な操作をすれば、すぐに交換できます。この点に関しては、日本よりかなり進んでいると思います。

任地では日本人が非常に珍しいようで、任地の道を歩いているとよく声をかけられます。有名人になった気分です。ですが通りすがりに「チンチョン！」と言われることが時々あります。同僚に尋ねると、軽い差別用語らしいのですが、気分がいいものではありません。ですので、言われたらこう切り返すことにしています。「わたしは日本人だ。挨拶は『KONNICHWA』だ」と。声をかけてきた彼らも、私とどう接したらいいか「分からないだけ」で、悪気はないのだと思います、たぶん。「草の根外交官」として、地道に伝道しています笑。

〔3. ことばのちから〕

赴任先のティカからたまに首都ナイロビに行く際はタクシーを使います。約1時間の道程ですが、「当たり外れ」があり、よく喋るドライバーに「当たる」と、もれなく車内で語学レッスンが始まります。アジア人である私の口からスワヒリ語で「Mambo?」などと挨拶されただけで、嬉しくなってしまうようです。おかげで現地で使われているキクユ語も挨拶程度は喋れるようになりました。ケニアで多数を占める民族、キクユ族の言葉です。町で通行人と目が合った際にキクユ語で挨拶すると、とても喜ばれます。片言ですが、やはり現地語というのは、お互いの心の距離を縮める最善の方法だと再確認できます。異文化コミュニケーションの醍醐味を堪能している毎日です。



【カバの糞入りポストカード】



【紙漉きの様子】

2021-4 宮道 宏彰 タイ コンピュータ技術 千葉市

私は、2020年3月末で36年間勤務した会社を60歳で定年退職し、2022年2月から JICA 海外協力隊員として、タイ王国にきています。現在タイ国内では、約20名の協力隊員が各地で活躍しています。

私の派遣先である、プリンセスチュラポンサイエンスハイスクール（以下 PCSHS）という学校は、王立の中高一貫・男女共学・全寮制で理数系科目に重点を置いた学校で、タイ国内に12校あります。そのうちの PCSHS のチョンブリー校が派遣先です。

2019年までの3年間は、PCSHS 各校に最大5名の協力隊員が派遣されていました。その協力隊員が中心となり、日本の高等専門学校とも連携して、毎年、Game Programming Hackathon 大会を開催していました。しかし、コロナにより2年間凍結し、今年、3年ぶりに再開する予定です。

私の活動の目的の一つは、この Hackathon 大会を無事に完遂することです。しかし、現在、チュラポンに在籍している協力隊員は、私1名のみであり、以前のように協力隊員が中心となった推進は不可能な状況でしたが、10月に開催したタイ予選大会は、OBEC というタイ教育省組織と PCSHS の先生方で盛大に完遂することが出来ました。12月には、日本の高専の生徒も交えた決勝大会が予定されています。

私は、これ以外の活動計画としては、クラブ活動の一部を担っており、その中で、生徒たちのモチベーションを喚起することを目的に、私から伝えたい3つの個別テーマについてタイ語で授業を実施するための準備を現在進めております。

既に、タイで生活を始めて、9ヵ月が経過していますが、未だに言葉の壁が厚くのしかかっています。日常生活していだけであれば、あまり大きな問題ははありません。しかし、業務を遂行するとなると、現場の状況や相手の考えを理解し、それに対する自分の意見・考えを相手に伝える必要があり、このためには言葉の壁を乗り越える必

要があります。地道な努力は継続しているつもりですが、中々、思うようには前進しません。活動期間は、あと1年3ヵ月ですが、この壁を乗り越えられるかはわかりません。しかし、前述の2つの活動目標はクリアできるよう着実に準備を進めていこうと考えています。

私は、実際に協力隊員として任地に派遣される際に、『活動は現場に入ってみないと何ができるかわからない。決して焦らず、小さくてもできることを実行し、活動期間の2年間で安全に、健康第一で全うしよう』、と心に決めて赴任しました。想像していた以上に、活動していく上での、ハードルが多くて苦しい場面もありますが、残りの期間で、小さな足跡を残したいと考えています。



【活動計画を校長先生にプレゼン】



【Hackathon タイ予選スタッフ】

2021-1 寺澤 晶子 セルビア 食品加工 千葉市

私が活動しているセルビアという国はかつてバルカン半島に存在した南スラブ人を中心とした国家「ユーゴスラビア」において政治的に中心を担っていた国です。1990年代に起こった内戦により、経済発展が他のヨーロッパ諸国と比較すると遅れているのが現状ですが、近年では経済の発展が目覚ましく、現在はEUへの加盟を目指しています。

私は、セルビア北部のボイボディナ自治州の州都であり、首都のベオグラードに次ぐ第2の都市ノビ・サドにある「ボイボディナ開発庁」で勤務しています。配属先は大きく分けて「外国直接投資（FDI）」と「中小企業振興」の2つの業務を担っています。私の活動内容は後者の「中小企業振興」で、農産物を加工している中小企業に対し、製品の品質や生産管理の改善のための助言を行うことで、セルビア国内及び国外のマーケットの拡大を目指しています。ボイボディナは農業に適した広大な土地を有しているため、ヨーロッパでも有数の農業地域です。しかし、セルビアは家族経営が多く、効率的な品質管理や生産管理のノウハウを持っている企業が少ないため、EU諸国と比較すると競争力が乏しいことが課題です。私の日常業務はボイボディナ州の食品加工業者を訪問し、製品の生産管理に関する聞き取りと製造ラインを確認し、改善案を提案することです。また、品質・生産管理のアドバイスとは別に、乳製品やワイン等のボイボディナ産の農産物加工品を日本へ輸出するための計画にも携わっています。輸出する食品の規格や製造方法等が日本の法律に適合する必要があるため、企業を訪問し、製品の規格書や製造フローを確認し、輸出のためのアドバイスをしています。

次に、私の住む街「ノビ・サド」と「セルビアの人々」について紹介したいと思います。セルビアは多くの地域が過去オスマン帝国に支配されていた時期があり、食事や建築物でオリエンタルな雰囲気を感じられる国ですが、私の住むノビ・サドはオーストリア・ハンガリー帝国に支配されていた影響を強く受けており、ヨーロッパ的な美しい街並みが広がります。また、セルビア人の生活スタイルは、日本と比較すると非常にゆったりとしています。仕事で残業することはほとんどなく、皆定時には帰宅し、家族や友人との時間を過ごします。セルビア人の

性格は、初対面の人に対してもフレンドリーで、親切な人が多いです。職場の人をはじめ、地域の人も生活面で困っていると積極的に助けてくれます。私のセルビアでの生活は、周囲のセルビア人のおかげで、とても快適に過ごすことができおり、日々人々に感謝しています。



【同僚、事業者とワイナリーでランチミーティング】



【街の中心部にあるノビ・サドのランドマークとなっているカトリック教会】

2021-2 金澤 峻 パラグアイ コミュニティ開発 君津市

南米大陸の中央にあるパラグアイ。国の中央にはパラグアイ川が流れ、東部と西部に分かれている。東部は森林丘陵地帯、西部は大草原。気候は亜熱帯性、平均気温は 17～24.5℃。南半球に位置するため、季節は日本と真逆。10月から3月までは夏季に当たるため、日中は 30℃以上とうだるような暑さだ。

首都アスンシオンでは、近年、都心部を中心にショッピングセンターや高層ビル等が立ち並び、急速に経済発展している。携帯電話や自動車などの工業製品は海外製のため、現地の人々にとっては非常に高価だが、ローンを組んで購入する姿を見ると、経済成長の勢いを感じる。

国内での交通網は自動車を中心だ。鉄道はない。自動車産業を中心に日本企業や韓国企業の進出が目立つ。そのためか、中国や韓国、日本食を提供するレストランがある。専用のスーパーマーケットもある。そこでは、日本米をはじめ、醤油や味噌、乾燥わかめや干し椎茸、本だしやめんつゆなどの調味料の品揃えは抜群だ。首都での生活は少し割高だが、必要なものは何でも揃う。

パラグアイの人々は皆、外国人に対しても気さくに話しかけてくれる。たいていのことは気にしない、穏やかな性格だ。誕生日やクリスマスには家族で集まり、週末は決まってアサード(南米流 BBQ)をして過ごすのがこの国の流儀。家族や友人との時間をとても大切にしているようだ。

私は 2021 年 11 月より中南米にあるパラグアイに赴任している。この国の首都アスンシオンに私の赴任先がある。私が勤めるのは、パラグアイ農業金融公庫 (Crédit Agrícola de Habitación, 以下「CAH」) という金融機関だ。1951 年から、小規模農家や農村零細企業家に向けた様々な金融商品やサービスを提供してきた。国内には 80 カ所の顧客対応センターを持つ。融資を提供している小規模農家や零細企業家の数は約 92,000 人に達している。(2022 年 4 月 時点)

CAH が抱える課題は、それぞれ、①非優良顧客の割合が多い、②融資の貸倒リスクが高い、③新規顧客の獲得が横ばい(もしくは微増)、の3点だ。

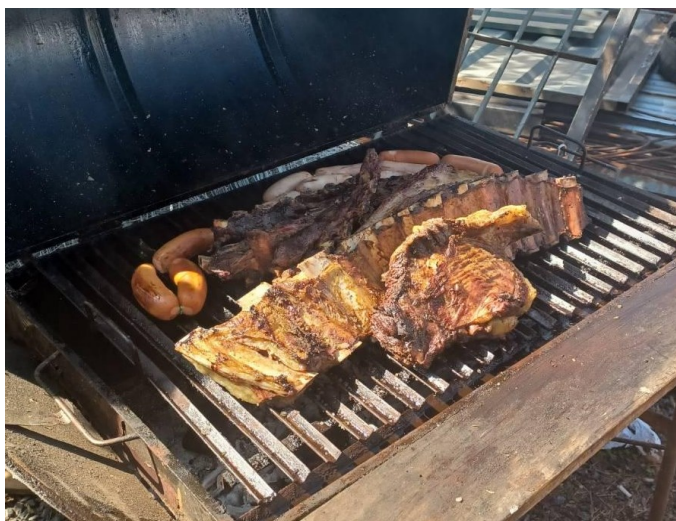
信用度の低い人々への融資は、予想以上に難しい。彼らを作る農産物の生産量や品質は、気候リスクによって非常に不安定だ。特に干ばつの年は融資の返済が滞る傾向にある。政府直轄の金融機関ということから、融資を助成金と誤解する顧客も多い。それでも私は、いつしか CAH が、黒字経営を実現し、事業として健全な運営ができるよう、これからも支援を続けていきたい。



【いちごの時期に、CAHの顧客農家を訪問した】



【私の誕生日に家族とアサードを行ったときのようす】



【アサードを焼いているときのようす】



【毎朝、出社するとテレレというお茶を準備するのが日課に】

2021-1 市川 なつみ カンボジア 体育 東金市

(1) 隊員活動に関すること

私は2022年3月17日からカンボジアのバタンバン州で体育隊員として活動しています。配属先は、サウハー中学校で州の中心地に位置しています。教員数は73名で生徒数は3学年合計で1165名(28クラス)です。体育科目は各クラス週に1コマで、主にバレーボールやバスケットボールなどの球技を中心に行っています。カンボジアでは多くの学校が半日制で午前と午後に生徒が入れ替わりますが、私の配属先では全日制を導入しており、日本の多くの中学校と同じスタイルで学んでいます。私は、現地の体育教師2名と一緒に体育教育の質の向上と継続を目指すために活動しています。現地教員の得意な球技の分野では、主にサポートをしており、授業後に教員に対してアドバイスをしたり、意見交換を行っています。また、リズム運動や体づくり運動などの現地教員の苦手な分野は、体育の指導書をもとに授業の内容の計画、単元テストの作成(実技)を行い、1回目の授業は生徒に教えると同時に、現地教員にも授業の進め方を伝えるようにしています。また長期休暇期間は、次年度の活動計画や体育器具の作成なども現地教員と一緒にを行っています。

(2) 任国に関すること

カンボジアの面積は約181,000 km²で約日本の半分で、人口は1530万人です。首都はプノンペンです。宗教は大多数が仏教で、公用語はクメール語を用います。主な観光地は、シェムリアップ州にあるアンコール遺跡群で、アンコールワットは世界遺産でカンボジア国旗にも描かれています。主食はタイ米のような細長いお米で、お肉や魚、野菜をおかずとし、比較的日本人が好きな味付けです。

私の任地であるバタンバン州は首都から北西に約300 kmの場所に位置しています。バタンバン州は米の生産量が国内1位であり、先日行われた『世界コメ会議』では最優秀米2022を受賞しています。

カンボジア人は朝が早く、学校も 7 時から始まります。また、朝の挨拶は「おはよう」の後に必ずと言っていいほど「朝ごはん食べた？」と聞かれます。休みの日に 6 時ごろに電話で起こされて一緒にご飯を食べて 7 時には解散ということもしばしばあります。

(3) 8 カ月住んでみてびっくりしたこと

異国の地に長期滞在したことがない私にとって日常で衝撃を受けることもたくさんあります。その中で特にびっくりしたことを 3 つ紹介します。

まず 1 つ目は市場でのお肉の売り方です。日本では、スーパーで部位ごとにパックされているのが普通ですが、カンボジアの市場では、鳥が丸ごとドーンと置かれていたり、豚の頭やいろいろな部位が大きい塊で置いてあり、欲しい部位と量をお店の人に伝えるとその場でカットしてもらえます。冷蔵庫はもちろんないので、なんとも言い表せない匂いが立ち込めています。最初は衛生面が心配でしたが、今ではお店の人と仲良くなるくらい常連になりました。

2 つ目は、なんでも SNS にあげることです。カンボジアでは facebook が主に使われていますが、自撮りや遊んだ時の写真以外に、お葬式の様子や事故現場、手術の時の写真など、ほんとうに何でも晒します。私の知らないところで、私の授業の様子が上がってた時はびっくりしました。

3 つ目は、出会うカンボジア人のみんながすごく優しいことです。配属先の先生方はもちろん、市場の人や屋台の人、トゥクトゥクの運転手など多くの方が、親切にしてくれます。私の拙いクメール語を真摯に聞いてくれたり、発音が間違っているとその場で勉強会が始まったり、色々なものをおすそ分けしてくれたり、いろんな場所に連れて行ってくれたり、会ったことのない私の家族を心配してくれたり、挙げたらきりがありませんが暖かいカンボジア人に囲まれて生活できるのがとても幸せだなと感じています。残りの任期で活動を通じて恩返しをしていきたいです。



【授業の様子】



【おすそ分けいただいた果物】



【カンボジアの象徴】

2021-3 宮田 萌美 セルビア 防災・災害対策 松戸市

私が派遣されているセルビア共和国は、バルカン半島の南東に位置しています。緯度がちょうど北海道と同じくらいで、千葉に住んでいた者としては、特に冬の寒さが身に染みます。逆に夏は、湿度が低いので比較的快適です。

日本と同様に四季があり、市場には季節の野菜や果物が並びます。春には、イチゴやサクランボなどの果物が並びはじめ、夏になるとメロンやスイカ、トマト等、秋になるとリンゴ、パプリカ、キャベツ等、色々並びます。冬になると野菜が取れないので、多くの人が秋になるとパプリカやキャベツを段ボールなどに入れて大量に買っていきます。そして、家でアイバルやキャベツの塩漬け、ピクルス等の保存食を作ります。

アイバルは、セルビアの食べ物としても有名で、古くから「野菜のキャビア」として親しまれています。パプリカやナスをオーブンで焼き、ニンニクや油、スパイスなどと混ぜて煮た料理になります。パンに付けて食べてもいいし、肉や魚と一緒に食べることもできます。セルビア料理全般に共通していることですが、優しい味で日本人にも食べやすいと思います。

野菜以外に果物も、保存するために砂糖で煮たスラトコを作ります。こちらは、個人的な感想ですが、ジャムより酸味がなくて甘い印象です。お土産でもよく売られていますが、日本人にはパンではなくヨーグルトなど一緒に食べるくらいがちょうどよいと思います。セルビアでは、これを朝食の代わりに水と一緒に食べる人もいます。また、プラムやアズンズ等からラキアと呼ばれるブランデーを自宅で作っている人もいます。ラキアは、アルコール度数が40%を超える強いものが多いですが、ティータイムに、コーヒーを飲む人もいれば、ラキアを飲む人もいます。親しまれている飲み物です。

セルビアの冬ごもりのための保存食を紹介しましたが、冬支度としてセルビアにはもう一仕事あります。田舎に限った話かもしれませんが、セントラルヒーティングで家を温めるため、戸建てでは暖炉に薪をくべる必要があります。そのために、大量の木を冬の前に割って保管しておきます。その薪割りも各家で行っているところが多く、その大変そうな姿も秋ごろ見かけます。

今回は、冬支度に関して紹介しましたが、セルビアには他にも季節・気候に根付いた習慣や考え方も多く、地域の人の目線で生活することの面白さを実感するとともに、貴重な経験をさせていただいていると感じています。



【トラックで売られているキャベツ】



【知人からいただいたアイバル】

2021-4 鈴木 美佐子 カメルーン 青少年活動 柏市

私の任地はカメルーン共和国西部州ンデ県バンガンテ市です。カメルーンはミニアフリカと言われることもあり、地域によって地形や気候が違います。私の住むバンガンテ市はカメルーンの中でもそんなに暑くない気温で過ごしやすく、雨季になると肌寒い日もあります。停電は時々、インターネットもそれなりに通じ、水道はほぼ出ないが近くに水汲み場あり、食料品も日用品も最低限は揃い、不便と感ずることもありますが想像していたより生活しやすい街です。

私の職種は青少年活動で初等教育省ンデ県事務所に配属されています。現在は幼稚園3園で活動し、教諭たちへ授業の提案や補助をしています。始めは見学をしてどんな授業をしているのか、私は何ができるのかを考えました。実際にアクティビティを提案して実施しましたが内容がカリキュラムに合っていなかったり、教諭たちにうまく説明できず理解してもらえなかったり、子どもたちには難しかったり…。うまくいかないことのほうが多いですが、少しでも先生の授業内容に変化があり、子どもが楽しく学べるようになればいいなと思っています。

休日は同任地の隊員と時々イベントに参加し、伝統的な歌やダンス、工芸品などが見られたときは嬉しいです。また現地の方にカメルーン料理を教わることもあります。私はカメルーン料理の中でレギュームソテーが好きで教えてもらいました。レギュームはフランス語で野菜ですが、カメルーンではある葉野菜をレギュームと言っているようです（私もいまいちわかっていません…）。どのカメルーン料理も時間も手間もかかり、食べたいけど作るの大変だなあと感じてしまいます。日本の総菜や冷凍食品の食べたいときにすぐ食べられるすごさを感じています。

カメルーンに赴任してもうすぐ1年になりますが、いまだにフランス語がうまくしゃべれず、日々勉強しています。時にはカメルーン人との考え方や風習の違い、コミュニケーションがうまくできないこと等があり、悶々とすることもあります。けれどその中でもコミュニケーションを取り続けてくれる人、困ったことがあれば助けてくれる人がいてくれることが私の中での大きな支えです。まだまだ知らないことやできていないことがたくさんあります。帰国するまでにカメルーンライフを楽しみたいと思います。



【活動先幼稚園でダンスをしているところ】



【レギュームソテーと芋（たぶんマカボ）】

2021-1 濱満 直人 ウガンダ 環境教育 千葉市

〔活動：〕

私は、ウガンダ派遣中 2021 年度 1 次隊 環境教育隊員の濱満(ハマミツ)と申します。現在、首都カンパラ近郊のラムサール条約湿地（世界的な野鳥保護区の一つ）を拠点とした観光協会に配属され、活動しています。配属先はコミュニティツーリズムを推進する NGO の傘下に属する観光協会で、主に野鳥観察やクラフトの製作販売を通じた女性グループ支援を行ってきました。

多くのプログラムを担ってきた配属先ですが、コロナの影響で全ての活動が停止してしまい、メンバーが次から次へと脱退していき、最終的には 5 名ほどの小さなグループになりました。現在は残ったメンバーで環境保全を目的としつつ、動画作成、養鶏、キノコ栽培、キャパシティビルディング等、幅広く活動を試みています。任地の人々は活動に熱意があり、お互いにアイデアを出しながら出来ることを一緒に頑張っている最中です。

〔ウガンダでの生活：〕

配属先には決まった勤務時間がありません。事務所に電気もありません。このグループは漁師や農家で構成され勤務時間が様々です。朝と夕方は漁師がビクトリア湖に向かい、日中は農家が畑仕事で忙しく、メンバーが揃うことは難しいです。そのため、活動には特定の出勤時間がありません。多くのプログラムに参加することで活動を形成していく事になります。

こんな任地の一日は朝の洗濯と掃除から始まります。ウガンダで洗濯は基本的に手洗いで、洗濯機に慣れていると最初はとても大変です。舗装道路が少ないためか、埃が良く舞い上がり、服も一瞬で土まみれになることもあります。同じように家の中にも埃が入り、毎日念入りにホウキをかけます。ウガンダではこれが当然で、子供でも洗濯やホウキがとても上手で敵いません。

〔食事：〕

家事を終えると、朝食の時間です。ウガンダではドーナツやマンゴー等の果物を軽食として朝に食べる事が多い

です。そして、ウガンダ人は紅茶を良く飲みます。朝は意外と冷え込むので温かい飲み物は重宝されます。

お昼ご飯は炭水化物を多めに盛り付けたウガンダ料理の出番です。蒸しバナナ、サツマイモ、キャッサバ、お米、じゃがいもやメイズ等、好みやその時の市場にあるものを日本人からしたら特盛サイズでいただきます。おかずは魚、牛、ヤギ、鶏、豆等をスープにしたものを合わせて食べます。ウガンダの料理は大変美味しく、慣れてしまうとペロリと大皿を食べることが出来ます。

一日の終わりには軽食がポピュラーです。焼きメイズ、肉の串焼き、ロレックス(インドのチャパティに卵)等、屋台飯が盛んです。

活動地域であり、生活圏でもあるルーテンブ湾付近ではそれぞれ時間が決まっており、ロレックスは朝、焼肉はお昼、焼きメイズは夜とニッチに対応している印象です。個人的にはメイズが淡泊で美味しく感じます。日本のお祭りで販売される焼きトウモロコシ感覚で、手で掴んでボリボリ食べるちょっとした非日常として楽しんでいます。

ウガンダの素晴らしい気候と温かい人々、そして豊かな食をこれからも大事にしたいです。そこから生まれる信頼を頼りに活動を進めて行こうと思っています。



【ビクトリア湖のおさかなスープと蒸しバナナ】



【他隊員が活動する学校での環境教育講座】

2021-1 木村 愛花 ケニア 青少年活動 船橋市

私の活動地域である首都ナイロビは、ケニアのみならず、東アフリカの政治・経済・文化の中心地であり、多くの国際機関や企業も拠点を置いている。街には高層ビルや巨大ショッピングモールが点在し、近代的でありながら、一步郊外へ出ると、田舎の街並みや国立公園が存在する。近年ナイロビへの人口流入は激しく、約500万人が暮らしている。先述したように、都市部には巨大ショッピングモールが立ち並ぶ一方で、国内最大のキベラスラムをはじめとするスラムも数多くある。人口増加に伴い、経済格差や失業率の問題は深刻で、路上で物乞いをする家族や子供たちに会わない日はない。

配属先であるナイロビチルドレンリマンドホームは、首都ナイロビ内の北西部に位置している公立の一時拘置施設である。国内に14あるリマンドホームの中で最も古い歴史を持つ。この施設は、罪を犯した子供やストリートチルドレンなど、警察に補導・保護された7～17歳の男女を、裁判所による処遇が決定するまで一時的に拘置する目的を持つ。新型コロナウイルス流行前の受入れ数は100名を超えていたそうだが、現在は30名前後を推移している。犯罪の内容は、殺人や窃盗、ドラッグ、暴力などで、保護の場合は、家出やネグレクト、虐待などによる路上生活によるものや、人身売買、児童労働など、子供によって様々である。中には、隣国のタンザニアやウガンダ、エチオピアから出稼ぎにきている親を探しにケニアに来て、親に再会もできぬまま繁華街で迷子になって保護されたケースもある。見知らぬ街でどんなに心細かっただろう。リマンドホームへ入所してくる子供たちの背景や生活環境を知れば知るほど、苦しく、切ない思いになる。もちろん、その子自身の素行の問題が大きく関係している場合もあるが、未成年の子供たちが、当たり前前に大人に温かく見守られながら養育されてこなかった現状は、私の想像の域をはるかに超えている。

リマンドホームの一義的な目的は拘置であり、教育・更生ではないため、子供たちは学齢期であるにも関わらず、教育を受ける機会が圧倒的に少ない。また、入所中は施設外へ出ることができず、学校へ通うことも叶わない。そのため、算数や英語などの基礎教育や、社会的スキル向上のためのトレーニングを導入し、現地スタッフに協力してもらいながら実施している。年齢の大きい子供たちは、面倒見が良く、低学年の勉強をサポートしている姿をよく見かける。とても微笑ましい風景である。

よく笑い、食べ、日焼けしたケニアでの生活がもうすぐ終わる。活動の持続性や必要性、ケニア流のしつけ方法などに悩み、時にはケニア人スタッフと討論して、涙することもあった。一方で、そのような時には、配属先の同僚や子供たち、ケニアの母親的存在のおばちゃん、集落に住む人々、協力隊の同期、日本で応援してくれている方々など、たくさんの支えを感じた1年でもあった。残りわずかなこの貴重な時間を大切に過ごしていきたい。



【社会的スキルトレーニングの一つとして、ビーズアクセサリー作りに挑戦！ルールを守りながら、互いに教え合って、時に言い争いながら、作成中】



【外遊びの時間に日向ぼっこしていたら、子供たちが混ざってきた！様々な背景のある子供たちだけど、毎日愛おしくてたまらない】

2021-1 山下 宗之 ケニア 青少年活動 八千代市

2021年1次隊の山下宗之と申します。千葉県内にある公立中学校で5年間勤務した後、現在は現職教員特別参加制度を利用しケニアで活動しています。大学時代から国際協力に興味を持ち始め、教員になってからも「いつかは海外で仕事をしてみたい！」と思っていました。色々調べていく中で、教員の身分を保持しながらJICA海外協力隊へ参加できる制度がある事を知り、思い切って応募してみました。

派遣先は首都ナイロビにあるカベテ男子更生学校となりました。薬物使用、窃盗、性加害などの罪を犯した青少年が在籍する施設で、主に社会復帰を目的とした学校です。生徒在籍数は15名ほどであり、生徒たちは寮生活を行っています。日本の中学校では英語教員として勤めていたため、カベテ更生学校でも英語教員として活動するよう配属先からお願いされました。当初は、「日本での5年間の経験があるし、余裕でしょ！」と鷹を括っていましたが、すぐに壁にぶつかりました（笑）。まず時間通りに生徒が教室に来てくれません。一応の時間割はあるのですが、学校に時計自体存在しないので、いつ授業を始められるのかはその日学校に行ってみないとわかりません。教える立場の教員たちも授業に来たり来なかったりと、日本では考えられない光景がそこにありました。子供たちとの接し方も苦労した部分で、特に叱る場面では頭を悩まされました。日本の子供たちには極力諭すようにすると上手くいくことが多かったのですが、ケニアの子たちにはそれは全く通用しませんでした。喜怒哀楽を出すのが得意ではないので、慣れるまでにはかなり時間がかかりました。

今でも上手くいかないう事は数えきれないほど多くありますが、ケニアの学校で働いてみて学べた事もそれ以上に多くありました。現地スタッフの教育感に触れることができたり、日本にはないカリキュラムを経験できたり。何より日本の子供もケニアの子供も可愛い！自分は教師の仕事が大好きなんだと再認識することができました。

ケニアに来てから強く思うことがあります。それは「離れてみて気付く事は多い。」ということです。ケニアに来てから日本の良さ、弱さを意識するようになりました。それはケニアに来たからこそ気付けた財産です。任期も残り僅かとなりました。この冬（1月）にエジプト・ヨルダン・チュニジアの3カ国へ訪問する予定です。帰国後には、他国でのまた新しい発見と気づきを千葉の子供たちへ還元していきたいです。



【授業の様子】



【サファリパークにてライオンの親子】

2021-2 中山 舞子 モザンビーク 経営管理 東金市

こんにちは。モザンビーク共和国にて海外協力隊員として活動している中山舞子です。現在モザンビークに来て一年の私のここでの生活や活動について紹介していきます。

モザンビークはアフリカ南東部のインド洋に面する、温暖な気候と豊かな天然資源に恵まれる国です。旧ポルトガル植民地だったことから公用語はポルトガル語が話されています。モザンビークの特徴としてはまず人々がとにかく陽気。歌と踊りが大好きで、道を歩いていると色んな方角から笑い声が聞こえてきます。日本ではちょっと遠くに知り合いを見つけても、気まずいので見て見ぬふりをするということもあると思いますが、こちらでは全く通じません。どんなに遠くにいても「MAIKOOO!!!」と大声で呼びかけてくれます。もう一つの特徴はご飯が美味しいところ。ポルトガルの影響もあり、お肉やシーフードなど幅広い食事が楽しめます。ココナッツミルクとピーナッツパウダーで野菜やお肉を煮込む料理が非常に一般的で、どれを食べても美味しいです。

そんなモザンビークのマニッサ群という首都から車で1時間半ほど離れた町で、私は「経営管理」という職種で活動を行っています。モザンビークは首都と地方の貧困差が非常に激しく、地方部では産業の発展の遅れが目立ち、なかなか経済状況が向上しない現実があります。そんな中で、私は地域の中小企業や事業主が、経営マネージメントやマーケティングについての知識やノウハウを身に付け、売上や生産性の向上を実現させる、という目的で活動しております。

一年任地のマニッサで活動をしてきて、生活に困窮している人が非常に多く、仕事のない若者も多くいることを実感した一方で、そうした逆境に立ち向かい起業をする若者が多くいることを知りました。前向きなエネルギーで溢れるモザンビークの若者に触れ、彼らがモザンビークの次世代産業を担えるよう後押しとなる活動ができればと思い、現在は主に若い起業家向けの出張セミナーや、起業家を巡回し個別の経営サポートを行っています。セミナーは月に1回配属先の同僚とともに、ビジネス計画の立て方、コストや売上の計算方法、そしてSNSを使ったマーケティング手法についてなどの内容で実施しています。マニッサは地域差が非常に大きいので、行く度に新たな

人に出会い、様々な業種を知れるのが面白味でもあり、セミナーを行う上では大きなチャレンジでもあります。

もう一つの活動である個別の経営サポートでは、現在特に支援を必要とする事業者 8 社を中心に様々な経営アドバイスをしています。そのうちの一人にお菓子の製造販売業をしている若い起業家があります。モザンビークはピーナッツの栽培が非常に盛んですが、パウダー状にして調理には使いますがあまり加工品は食べられていません。来た当初からせっかくピーナッツが有名な千葉県出身なので、何か千葉の商品を再現できないかと考えていました。そこで生産者の彼女と一緒に、モザンビークにもお土産で持って来たピーナッツサブレの商品化に挑戦することにしました。まだ開発途中で、なかなか思う味や食感が再現できていませんが、ゆくゆくはモザン版チーバくんサブレがたくさんの人に買ってもらえるよう、試行錯誤していきたいと思っています。

ほんの一部ですが、以上がこの一年の私の活動の紹介です。この一年はとにかく色々な人に会い、たくさんのチャレンジをしてきた一年でした。トライ＆エラーの連続ですが、残りの一年もモザンビーク人の明るいパワーに助けられながら、人々の役に立てるよう精一杯取り組みたいと思います。



【セミナーの様子】



【ピーナッツを臼で粉碎する様子】

2021-2 木下 美音 カメルーン コミュニティ開発 我孫子市

エデアという町の保健事務所で、コミュニティ開発職として活動をしています。カメルーンの南西部に位置するエデアは、首都ヤウンデと比べて平均気温が高く、年中蒸し暑い地域です。マラリア、コレラ、麻疹や黄熱などの感染症に加え、川と隣接する地域の特徴からオンコセルカなどの寄生虫感染が人々の暮らしを脅かしています。保健事務所はそれらに対する施策を管理・指導しています。私は公衆衛生の活動に参加する一方で、母子の健康状態を改善するための取り組みを行なっています。カメルーンでは妊産婦や 5 歳未満の子ども死亡率が高いことが大きな課題の一つだからです。健康に関する調査を行い、その要因を探り、栄養改善などの啓発活動に取り組んでいます。

さて、カメルーンには 257 の部族があり、エデアは主に 5 つの部族の人々が暮らしています。彼らには独自の言葉や音楽、文化があり、日常会話は公用語である仏語と英語に加えて、それらの現地語が入り混じります。バイリンガルどころかマルチリンガルも多く、それぞれの言語を使い分ける様子に感心するばかりです。

またエデアの人々はとにかくパワフルで底抜けに明るく、私のような外国人に対してとても温かく接してくれます。老若男女問わず非常にフレンドリーなので、見ず知らずの人から声を掛けられることも日常茶飯事です。食べ物を持っていると「Bon appétit!」とはるか遠くから言われることも。一度コンタクトを取った人をうっかり

見過ごし素通りしようものなら「今日は挨拶もしてくれないの?」と言われてしまいます。ほんの僅かな時間でも、挨拶とコミュニケーションを取ることに意味があり、大切な文化のひとつのようです。

異国の地での生活は、悩んだり落ち込んだりすることの方が多いですが、そんなエデアの人々に助けられ、励まされながらなんとかここまで活動することが出来ました。残りの期間も悔いのないよう、毎日を楽しめたらと思います。



【マラリア予防キャンペーンの様子: 重さ 20 kg 以上ある白い袋の中には圧縮された蚊帳が沢山入っています。頭に乗せて足場の悪い入り組んだ地区の全世帯に蚊帳を配布する非常にタフな活動です】



【ポリオキャンペーンの様子: ポリオワクチンとビタミン A を投与した子どもの小指にマジックで印を付けています】

2021-4 木村 航平 ルワンダ コミュニティ開発 千葉市

私は現在、ルワンダ国カロンギ郡ブギシュラセクターにおいてコミュニティ開発隊員として活動しています。ここでは私の任地の特徴と今後の活動について紹介させていただきます。

任地において盛んな産業として、コーヒー産業と観光業が挙げられます。

まずはコーヒー産業について、ルワンダにおいて農業セクターは輸出総額の約 4 割を占めており、その中でもコーヒーは農水産物の輸出の約 5 割を占めるなど、外貨獲得手段として期待されている商品作物です*。同国政府はコーヒーの高付加価値化を目指し、農家における栽培技術の向上や加工プロセスの改善に取り組んでいます。その成果は着実に現れており、コーヒー消費国においても次第に「スペシャルティコーヒー」として認識されるようになってきました。任地においてもコーヒー生産は盛んであり、地域の主要産業のひとつとなっています。一方、ルワンダの方々にとってコーヒーはまだまだ手を伸ばすことの難しい贅沢品であり、国内消費量は低い水準で推移しています。

次に観光業について、ブギシュラセクターはルワンダ最大の湖であるキブ湖に面しており、内陸国である同国においては限られた水辺の観光地として人気を集めています。湖畔には大小 15 軒程のホテルが立ち並んでおり、各

ホテルからキブ湖を一望することが出来ます。湖ではボートに乗ってのアイランドホッピングや、夕日を眺めながらのクルージングなどが楽しめます。キブ湖から流れる風がとても心地よく、観光客はゆっくりと流れる贅沢な時間を楽しみに訪れます。非常に美しい観光地ではありますが、ポテンシャルを十分に発揮することにより更なる集客が見込めると考えています。

このようにコーヒー産業と観光業が特色である任地において、地域資源を生かした Off-Farm Job（農業以外の産業）の推進が配属先から求められています。

こうした背景から「コーヒーの国内消費量向上」と「観光業の更なる活性化」を目標に、地域住民向けのコーヒー販売イベントの実施、ホテルにおける高品質なコーヒーの提供支援、SNS 等を活用した観光情報の発信、ホテルにおける地元特産品の販売支援等の活動を実施予定です。

時間が過ぎるのは早いもので、気が付けば任期も残すところ 15 か月となりました。初めは慣れない海外生活でしたが、今では自分の街として愛着を持って生活を送っています。この街の皆さんの生活が少しでも豊かなものになるよう、精一杯活動していきたいと思います。

*独立行政法人 国際協力機構 コーヒーバリューチェーン強化プロジェクト

<https://www.jica.go.jp/project/rwanda/006/outline/index.html>



【キブ湖】



【収穫されたコーヒーチェリー】

4. 年会費納入のお願い

当会の会報は派遣中隊員と帰国隊員の寄稿、並びに報告事項などで構成され、年に2回（夏号、冬号）を発行しています。この会報の発行が当会の支出費目として大きなウェイトを占めています。

つきましては、当会運営の生命線である「年会費（1口「1,000円」）」のご協力をお願いします。2口以上のご支援も大歓迎です。当会運営の生命線は「年会費」ですので、引き続きご協力いただくようお願いします。尚、振込にあたっては「派遣国」と「隊次」を必ずご記入ください。

☆振込口座は以下の2行のどちらかにお願いします。

銀行名 : ゆうちょ銀行（当座預金）
 店番 : 029（ゆうちょ以外からの振込用）
 記号/口座番号 : 00290-1-96562
 名義人 : 青年海外協力隊千葉 OB 会

銀行名 : 三菱 UFJ 銀行 船橋駅前店
 記号/口座番号 : (普) 4769024
 名義人 : 青年海外協力隊千葉 OB 会

5. 編集後記

久しぶりに現地活動レポートをお届けできました。寄稿文から隊員の皆さんがそれぞれの場所で嬉しいことも大変なことも感じながら日々を過ごされている様子が伺えて、編集作業をしながら現地気分を味わわせてもらいました。数年間海外に出ていないと徐々に日本の感覚に馴染んでいくため、どんどん時間の流れを早く感じるようになります。物と情報にあふれてとても便利な日本での生活も好きですが、変化の少ないのんびりとした時間が流れる途上国の生活も心地よいものだったと思い出しました。そろそろパスポートの有効期限が近づいてくるため、今年こそ国を越えた旅に出たいです。

（平成27年度3次隊 ウズベキスタン共和国 PCインストラクター 高石 千絵）

～お知らせ～

ホームページのご紹介

新ホームページはまだまだコンテンツが少ないので、掲載する内容など募集中です。地域での国際交流活動など、なにかネタがあればご連絡ください。

URL は下記ですが、「青年海外協力隊千葉 OB 会」で検索していただくことでもアクセスできますので、是非ともご覧ください。

青年海外協力隊 千葉 OB 会 ホームページ: <https://jocvchiba.org/>

メーリングリスト/Facebook グループのご案内

上記ホームページにて、当会のメーリングリストと Facebook グループへの参加をご案内しております。是非ご参加ください。